

今月の症例

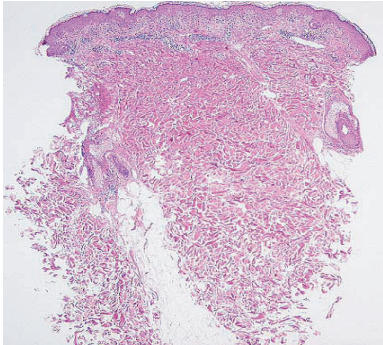
Erythema multiforme

49才、女性

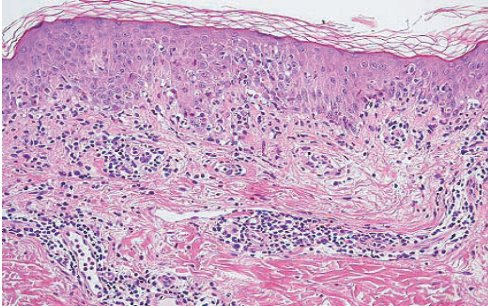
生検部位：背部

臨床診断：drug eruption

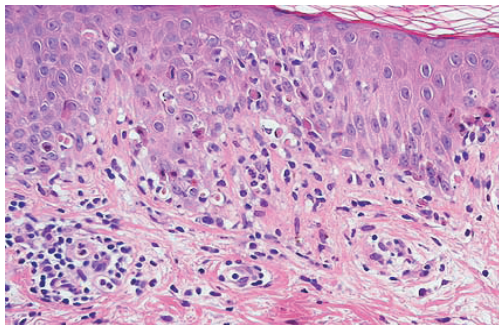
病理診断：Erythema multiforme



真皮上層から深層にかけて著明な炎症性細胞浸潤が認められる。



血管周囲およびに膠原線維間に著明な炎症性細胞浸潤が認められ、真皮-表皮境界部の空胞変性を伴っている。



炎症細胞浸潤はリンパ球、好酸球、好中球が主体で、表皮内へも多数浸潤している。角化細胞が壊死して好酸性に見られる。またメラノファージの出現も見られる。組織学的にはEM型の薬疹との鑑別はつかない。



セミナー開催のお知らせ

ただいま、参加お申し込み受付中です。
ホームページ、E-mail、ファックスにてお申し込み下さい

皮膚病理講座 応用編（東京）

臨床をみて病理を考え、病理をみて臨床を考える

皮膚病理の常識・非常識

対象：皮膚科・病理科専門医および研修医指導医

2004年6月26日（土）13時～17時

27日（日）9時～16時

会場：日本教育会館（東京都千代田区）

皮膚病理指導医養成講座（年6回連続講座 東京）

2004年4月開講

研修医を指導するために必要な皮膚病理学

第2回目 7月 3日（土）：炎症性皮膚疾患2

第3回目 8月 21日（土）：炎症性皮膚疾患3 &

沈着症と変性性疾患

いずれも9時～17時

皮膚病理診断ワークショップ 東京

皮膚軟部組織腫瘍病理診断のガイドライン作成

2004年 8月 7日（土）9時～17時

会場：エーザイホール（東京）

講師：廣瀬 隆則先生（埼玉医科大学病理学教室）

皮膚外科手術のための皮膚腫瘍病理学講座（東京会場）

手術切除される頻度の高い皮膚腫瘍の病理組織像の解説と

手術方法や切除範囲の検討

2004年 8月 22日（日）10時～16時

会場：エーザイホール

皮膚病理診断コンセンサスセミナー（札幌）

皮膚軟部組織腫瘍病理診断のガイドラインの作成

2004年 9月 4日（土）9時～18時

5日（日）9時～15時

会場：札幌皮膚病理研究所

*前回のセミナー参加者を、優先受付しております。

詳細はホームページをご覧ください

～各種お申込・お問い合わせは当研究所まで～

札幌皮膚病理研究所

〒001-0018

札幌市北区北18条西3丁目21-793

TEL 011-756-4810 FAX 011-756-4842

E-mail office@sapporo-dermpath.com

Website www.sapporo-dermpath.com

札幌 皮膚病理 研究所 NEWS



2004年6月号

What's new?

2004,4,16~18 第103回日本皮膚科学会総会（京都）

京都国際会館にて、コメンテーター：真鍋 俊明先生（京都大学病理部教授）
ナビゲーター：木村 鉄直で、CPC「皮膚病理の読み方」を行いました。
また、下の写真は企業展示のものです。



2004,5,8・9 皮膚病理講座 基礎編（東京）

東京の日本教育会館にて、専門医になるために必要な皮膚病理の知識や専門医試験受験対策を含むセミナーを開催致しました。
全国からたくさんの先生方にご参加頂きまして、誠にありがとうございました。



悪性リンパ腫診断マニュアル 販売中

悪性リンパ腫診断マニュアルを販売中です。
皮膚B細胞リンパ腫の病理診断（2003,1,18）で使用されたハンドアウトを販売しております。
1部：2,270円（送料込み）
購入希望の方は、ご所属・お名前・送付先ご住所・ご連絡先（電話、FAX、E-mailなど）をご明記の上、FAXまたはE-mailでお申し込み下さい。

臨床医の声

「研究所ニュース」毎月、楽しみに読まさせていただいております。札幌から遠く離れておりますと、大学でのカンファレンスや講演会、地方会にはなかなか出席できず、最新の皮膚科学に接する機会をもてないのが一つの悩みです。

日常の診療で疑問を持った症例に関しては、今まで、皮膚科医である主人に相談したり、釧路皮膚科医会で発表して解決しておりました。しかし、木村先生が皮膚病理研究所を開設されてからは、そんな不安も消え、先生の報告用紙と自分の診断を対比させ、患者さんに説明しておりますので、自身を持って患者さんに接することができるようになりました。

当院では、北里大学形成外科から先生をお呼びして、形成外科の手術をしておりますので、悪性腫瘍の組織診断を必要とするものも多数あります。臨床診断と組織診断で疑問な点は、木村先生に直ぐ電話で相談でき、先生は、私の力強いスーパーマンのような存在です。

いつも明るく対応してくださるスタッフの皆さん、そして、新しく入られた先生方、これからも、皮膚病理発展のためにがんばって頂きたいと思っております。

足立皮膚科美容外科クリニック 足立 柳理

テレパソロジー：telepathology

テレパソロジーを利用した術中の迅速病理診断に診療報酬が設定されてほぼ4年が経過しています。

テレパソロジーは通信ネットワークを通じて顕微鏡の映像を送受信し、遠隔地の病理医が診断を下せるようにするシステムです。

私はテレパソロジーには外科病理医の不足、外科病理医の分布の地域格差、医療分野でのIT利用政策、医療費削減、医療の効率化、患者情報管理、器械設備費など現在医療や医療制度が抱える問題が背景や課題としてあることに気づきました。テレパソロジーが積極的に導入されてきたのは単純に医療技術の進歩に関わる問題ではないようです。

興味のある方は、国立札幌病院Telepathologyのホームページ

(<http://www.sap-cc.org/NetWork/telepa.html>)をのぞいてみて下さい。

臨床医の声

～木村先生との出会い その1～

木村先生と私は、北大皮膚科に少し遅れて入った新人である。

入局は先生が二年先輩だが、先生は内科を研修され、私は泌尿器科を研修後に入局した。楽しい医局生活を共にし、数年後、先生は勤医協に、私は、釧路労災病院に勤務した。平成1年冬、ワシントンでのADAに参加した折、先生から帰りにニューヨークのアカカーマン教授の所へ勉強に行くので、先生もどうかと声をかけていただいた。

私は、アメリカの医療現場を肌で感じてみたかったということもあるが、「アイスホッケーが見られる」という単純な理由で、先生の金魚の糞になった。

研修は、毎日、朝の7時半過ぎから夕方8時近くまでで、顕微鏡をずっと見てみると、肩こり、吐き気、眩暈に襲われ、私はつくづく病理学者に向いていないと悟ったアメリカ旅行だった。その時、先生は「将来、日本で皮膚病理学者としてひとり立ちし、専門の研究所を作りたい」と話していた。あの時、私は本気になっていなかったが、今、こうして皮膚病理学者として成功された先生を拝見すると、先生の意志の強さ、行動力には脱帽してしまう。

今後は、早く東京に出られ、日本の偉大な皮膚病理学者として大成功されることをお祈りしたい。

釧路皮膚科クリニック 足立 功一

今後のスケジュール

2004,5,20
勉強会；皮膚をみる会
場所；札幌皮膚病理研究所

2004,5,27
症例検討；札幌医科大学皮膚科症例検討会
場所；札幌医科大学

2004,6,2
症例検討；旭川医科大学皮膚科症例検討会
場所；旭川医科大学

2004,6,9~11
講師；第93回日本病理学総会 系統的病理講習会
場所；札幌コンベンションセンター

発刊責任者；定久 恵子